

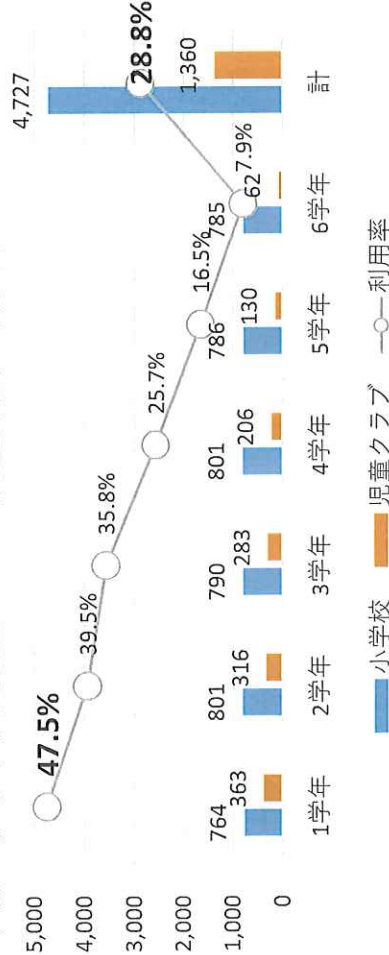
放課後児童クラブと学校の連携について

1. 背景

■ 放課後児童クラブのニーズの高まり

- 児童クラブの利用者は増加傾向。直近5年間で8%、10年間で17%上昇
- 利用率(全学年)…18.2%(平成28年) → **28.8%(令和4年)**
- 少子化の中、女性就労率の向上や保育の無償化の影響が

令和4年 小学校・児童クラブの児童数及び利用率



■ 放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な実施

- 「新・放課後子ども総合プラン」として、児童クラブと放課後子供教室の一体的な実施等により、「全ての児童」の安全・安心な居場所確保を図っていく
- 学校施設の活用促進
- 「全ての児童」を対象とした多様な学習・体験プログラムの充実

2. 課題

■ 放課後児童クラブと学校との連携強化

- 子どもの生活の連続性を保障するために、情報交換や情報共有、職員同士の交流等によって学校との連携を積極的に図る
- 子どもの遊びと生活の場を広げるために、学校の校庭、体育館や余暇教室等を利用できるように連携を図る

■ 放課後児童クラブと放課後子供教室の連携強化

- 国の方針では、空き教室や学校敷地内で放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に開設することとしている

3. 対策

■ 放課後児童クラブと学校、関係機関による

日常的、定期的な情報交換の場づくり

例えば…

- 児童クラブと学校の情報共有
- ・ 児童のフェイスシート及び日々の気になる様子や体調などの共有
- ・ 気象警報、不審者情報など下校の安全対策に関する情報の共有
- ・ 配布物や保護者への連絡事項などの共有

○ 学校施設の利用の調整

- ・ 余裕教室や運動場、体育館の利用調整、一時的な利用の促進
- ・ 夏休み等の学校施設の利用調整
- ・ 学校施設の利用にあたっての責任体制の明確化

○ 地域との連携

- ・ 地域(コミセン)施設の活用
- ・ 見守りや交流活動・イベントなど、地域(まち協)×児童クラブ×学校による地域ぐるみの放課後の居場所づくり

行政(子育て支援課)

教育委員会

放課後児童クラブ

まち協(コミセン)

地域・関係機関

小学校

コミュニティスクール
学校運営協議会

★ 日常的なコミュニケーションの仕組づくりで、関係者の連携を強化

- ・ まずは、小学校区ごとに対話の場づくりからスタート
- ・ 児童クラブ、学校など関係者が共通認識をもって取り組む